



13
2109
5



13
2109
5

萬弥



扶桑皇統記圖會前編卷之三目錄

吉備公讀野馬臺詩 長谷観音利益の條

吉備公野馬臺の詩と讀みの圖

和笏初瀬観音由来 佛坐巖出現の事

安祿山謀害吉備公 仲麿靈救吉備公危急條

近江の湖水へ冥木流し來るの圖

隆昌女思ふ因て吉備公を救ふ圖

王津島明神勸請	衣通姫人磨傳
長屋王諛死	大伴小夷復主仇事
大伴小夷乞丐と成て漆部君足と討圖	
聖武帝光明子宮御幸	吉備大臣与廣成帰朝
舍人親王薨去	始痘瘡流行事
僧元助乱宮内廣嗣謀叛	廣嗣憤靈殺女助條
元助筑紫小至て廣嗣が靈小遭命を隕て圖	

目錄終

扶桑皇統記圖會前編卷之三

浪華 好華堂野亭參考

吉備公讀野馬臺詩

長谷觀音利益之條

吉備大臣八仲九の亡靈の助依て、倭國の傳へざる其名の勝負を競を
 然り唐土四百余州弟の高手と呼まき、玄東が勝れきとも隆昌が石
 を吞隠せり也、對碁と成て勝負分るも、宮中へ退れ鴻臚館へ歸りて終日の
 疲勞と休められたる小其夜又仲九の靈次女が現して、吉備公小向て曰、今日宮中
 小於て其の争ひ小き由唐土隨一の名人と稱せれ、玄東あれば我劫通か、以
 貴卿小勝とせ進せり所、玄東が妻貴卿の得石を汝と吞隠せり也、
 となりたり何由不彼女が死し明し、石を吞隠せり義と白状させ貴卿の勝れ
 るに、やと向をれ、吉備公答て、賊小公の助力依て、難中の難なる其の争



小勝^{こかつ}とて得^え日本の耻^ち此身^{このみ}の耻^ちを免^{まぬ}れ^て吞^くけ^おき^し。礼^{れい}謝^{しゃ}不^ふ及^及。但^{たゞ}一^{ひと}其^{その}名^なを盗^{ぬす}む^る吞^の隠^{いん}せ^し。妻^{さい}我^{われ}も^ちと^と見^み上^{かみ}公^{こう}の告^つ小^こ弥^やと^と知^しり^ぬ彼^{かの}女^{にょ}東^{とう}が妻^{さい}と^と知^しれ^ぬも。其^{その}名^なと^と始^{はじ}る^る最^{さい}初^{しよ}より^{より}一^{ひと}心^{こころ}を凝^こと^と見^みる^る深^{ふか}死^し巨^こ細^せ有^ある^る。と^と思^{おも}ひ^ぬ石^{いし}を吞^く隠^{いん}せ^し小^こ及^及んで^て借^か先^{せん}夜^や公^{こう}の物^{もの}語^ご小^こ及^及す^る。玄^{げん}東^{とう}の妻^{さい}か^らる^る妻^{さい}を^を悟^{さと}り^ぬ。其^{その}時^{とき}乳^に明^{めい}せん^とと^と安^{やす}々^々れ^ぬも。彼^{かの}夫^{ふう}の肩^{かた}を厭^{いと}ひ^て我^{われ}得^える^る石^{いし}を偷^{ぬす}む^る隠^{いん}せ^し夫^{ふう}の^の小^こ貞^{てい}操^{そう}國^{くに}の^の忠^{ちゆう}節^{せつ}即^{すなは}ち^ち適^{あた}り^ぬ列^{れつ}女^{にょ}と^と纏^{ちん}ぬ^る。然^{しか}る^る小^こ我^{われ}勝^{かつ}と^と願^{ねん}ん^とと^と彼^{かの}女^{にょ}を乳^に明^{めい}せん^とと^と小^こ無^む道^{だう}殘^{ざん}刃^{じん}の^の安^{あん}祿^{ろく}山^{さん}前^{ぜん}後^ごの^の思^し慮^{りょ}も^も及^及ま^まさ^さと^と女^{にょ}が^が腹^{はら}を^を断^たり^ぬ殺^{ころ}せ^し。玄^{げん}東^{とう}を^を連^まき^き座^ざの^の刑^{けい}小^こ行^{ぎやう}を^を不^ふ仁^{にん}是^ぜより^{より}甚^{しん}ぶ^ぶ死^しぬ^る。我^{われ}大^{だい}上^{じやう}天^{てん}自^じ仁^{にん}君^{くん}か^らり^り倭^わ國^{こく}万^{まん}民^{みん}の^のあ^あれ^れを^を依^よ令^{れい}唐^{たう}土^どの^の人^{にん}民^{みん}を^を害^{がい}ひ^ても^も強^{かう}て^て曆^{れき}書^{しよ}と^と得^えて^て帰^{かへ}れ^りと^とハ^ハも^も思^{おも}食^{じき}す^る。且^{かつ}又^{また}唐^{たう}帝^{てい}の^の其^{その}小^こ步^ふ勝^{かつ}を^を秘^ひ書^{しよ}と^と貸^か与^よと^とある^る一^{いち}時^{とき}の^の方^{ほう}便^{べん}小^こ我^{われ}を^を屈^{くつ}し^し歸^{かへ}る^る戲^{げい}言^{げん}か^らり^り。され^を我^{われ}其^{その}勝^{かつ}を^を願^{ねん}ん^とと^と妻^{さい}

を左^さ右^う小^こ寄^よて^て容^{よう}易^い公^{こう}貸^かす^る。後^{のち}を^を玄^{げん}東^{とう}夫^{ふう}妻^{さい}と^と刑^{けい}對^{たい}せ^しむ^る無^む益^{えき}の^の殺^{ころ}す^るも^も彼^{かの}女^{にょ}石^{いし}と^と偷^{ぬす}む^る隠^{いん}せ^しハ^ハ卑^ひ怯^{けつ}あ^らず^し我^{われ}も^も人^{にん}を^を知^しぬ^る公^{こう}の^の助^{すけ}言^{げん}と^と頼^{たの}み^ぬ未^まと^と知^しる^る困^{くわん}基^きと^と知^しぬ^る唐^{たう}土^どの^の名^なと^と呼^よび^ぬ。玄^{げん}東^{とう}が^が眼^めを^を開^{ひら}いて^て勝^{かつ}小^こ女^{にょ}が^が石^{いし}を^を隠^{いん}せ^しより^{より}百^{ひやく}倍^{ばい}勝^{かつ}より^{より}卑^ひ怯^{けつ}なり^{なり}。依^よて^て女^{にょ}鏡^{かがみ}小^こ向^{むか}ひ^て時^{とき}安^{あん}祿^{ろく}山^{さん}胎^{たい}内^{ない}の^の若^{じやく}石^{いし}を^を見^みゆ^る。小^こ乳^に明^{めい}及^及んと^とせ^し我^{われ}我^{われ}姓^{せい}娘^{ぢやう}小^こ言^{げん}終^{しゆう}ら^りて^て女^{にょ}が^が危^き急^{きゆう}に^に救^{きう}ひ^て得^えせ^し。凡^{おほ}凡^{おほ}物^{もの}皆^{みな}公^{こう}命^{めい}小^こ從^{じゆう}て^て去^さ来^{らい}。敢^あて^て人^{にん}力^{りき}小^こ及^及ず^し。抑^{おさ}え^し正^{せい}天^{てん}皇^{かう}万^{まん}民^{みん}の^の為^{ため}小^こ日本^{にっぽん}曆^{れき}を^を制^{せい}衣^いと^と思^{おも}食^{じき}する^る。是^{こゝ}本^{ほん}朝^{てう}小^こ曆^{れき}道^{だう}真^{しん}多^た死^し萌^{もう}ふ^る。則^{すなは}ち^ち天^{てん}の^の命^{めい}か^らり^り也^{なり}。天^{てん}道^{だう}ハ^ハ寬^{かん}恕^{じよ}あ^らず^し。大^{だい}夏^げ小^こ夏^げ成^{せい}む^る。故^{ゆゑ}公^{こう}勅^{しやく}命^{めい}我^{われ}家^けり^り。此^{こゝ}土^ど渡^{わたり}り^り。玉^{たま}免^{めん}集^{じつ}と^と得^えん^とと^と昔^{こゝろ}学^{がく}と^と更^{さら}十^{じゆう}年^{ねん}遂^{つい}小^こ其^{その}書^{しよ}と^と写^{しゃ}記^き得^えて^て歸^{かへ}朝^{てう}の^の船^{ふね}の^の纜^{りょう}を^を解^とく^る。以^もつ^も難^{なん}風^{ふう}是^{こゝ}を^を妨^さげ^て我^{われ}小^こ唐^{たう}王^{わう}と^と思^{おも}食^{じき}す^る。ハ^ハ未^まと^と曆^{れき}書^{しよ}日本^{にっぽん}渡^{わたり}る^る。小^こ及^及期^きの^の来^きる^る。彼^{かの}下^げ和^わが^が楚^そ山^{さん}小^こ王^{わう}石^{いし}を^を借^かり^ぬ。ハ^ハ名^なと^と出^いる^る。小^こ及^及期^きの^の来^きる^る。故^{ゆゑ}二^に代^{だい}の^の王^{わう}曆^{れき}是^{こゝ}を^を玉^{たま}小^こ非^ひと^とし^し

三代目小至りて玉磨彼石を見て真の美玉なりとて琢磨し天下小饒なり名玉と成
ハ則ち天の期は巨かりされ彼王免集も倭國へ渡るる天の時無ん有るを古
絡も人皇を謀り天皇を成と謂り人かの私を以て火速小得んと欲するも徒小
て功無乃と然を逆天の時小任せ安用とて空しく年月を送るる天の時
又矢ふぞ只誠心を及べし極くして需心小境まを遂小望を成達すと下とすれ
亡雲もうち點首実然かり何處も天の時無ん有る待小不知去か安祿山楊
國忠ホの倭人如何なる毒針を殺ん量じ心を以て油断が去りふと絡合りも早
曉の鐘響小御音を亡雲うち驚し休めて再と見申ふとひは夜消失夜と
仄と明ふなり斯て吉備公と鴻盧館小在て唐帝の消息を待まれも何乃便
む程なく其年も春明れを唐の開元二十一年の春小なりぬされも猶唐帝より何乃
沙汰申なく只文官張九齡の倭伴使となりて常小旅館へ来り文學儒経の論談

をなするの吉備公素より好む道れを九齡小就て諸の典籍を字び太公望子孫
子あめ兵書か申すに究められぬ然る小春暮夏過秋も稍小の天小なり頃
吉備公旅館の障子申用たて隈かれ月をかめ仲九が天の原の詠歌と思ひ出し其
宿志を遂げんと異國の王小暇したる哀と不覺持衣の袖を沾され折ふ秋風
颯と吹来り月朦朧と曇りて何となく凄然時ゆかれ仲九の亡雲す現出如何や
吉備公長々旅館の滞留を待まむ人昨鳥唐帝の宮中にて評議存し其
始末と告進せんと見奉不入かり偕も唐帝日本王の親睦を黙止さるる彼私言
を倭國の使者小貸与るに仰るる安祿山揚國忠ホ先小困甚とあせて公下
我子んと巧計相違せし腹黒小思ひ唐帝と種小感し今一度難
當或せせん明日公致宮中招きし倭國傳りし書藉と續し耻を与ん
ぬれも貴脚乃博才を以て書留を續らん最易れとも二箇の難波の貞秋

唐帝の宝藏小野馬臺の詩といふ書あり。五言十二韻。二百二十字。其れ
とも其点の及り縦横小乱。何れの文字より續始。何れの文字より續終。又
れとも知。此詩。昔後漢の代。宝誌和尚と号する。道德高九僧。俗姓と避
て或深山。入菴と結び行ひ。まて在る。何國よりともあ。まて入の童女。まて
菴の壁。小一字と書。去其翌日。又別の童女。二人来り。壁。小一字と書。添て去
如此。まて更連日。不止。百二十日。百二十人の童女。交々来り。百二十字と題。宝誌和
尚。小昔て曰。此詩。八身。大日本の織文なり。你字。取て後。禁傳。よ。後。辛。月。然。と。續
者有。命。と。言。終。り。行。方。あ。ま。ま。と。去。と。宝誌和尚。奇異の思。成。か。教。の。如。く
書。字。一。と。世。禁。傳。傳。の。國。の。織。文。と。り。を。以。野。馬。臺。の。詩。と。号。す。但。野。馬。臺。六
野。馬。臺。と。り。義。あ。る。右。の。詩。世。禁。傳。れ。も。如何。なる。博。学。の。儒。者。文。人。の。曾。々
續。入。か。代。小。傳。り。て。今。唐。帝。の。什。物。と。な。り。宝。庫。小。秘。置。ま。ぬ。貴。卿。諸。乃。書。

藉を滞りたり續得ぬ。彼野馬臺の詩を出し。能讀下。み。玉。集。集
を貸し。續得ぬ。心。秘。書。と。貸。し。と。言。ぬ。彼。詩。八。身。作。小。あ。ま。ま。化。佛。の。作
る。織。文。も。れ。常。小。哭。王。守。護。志。あ。る。我。亦。如。幽。冥。の。陰。鬼。近。者。更。禁。傳。
と。彼。詩。の。我。却。通。力。あ。り。續。得。ぬ。貴。卿。丹。誠。を。疑。と。神。佛。を。祈。り。其。願
護。の。力。借。り。續。り。と。告。終。り。次。女。六。露。煙。の。と。消。失。す。吉。備。公。大。小。孩。れ
夜。令。日。本。渡。ら。る。書。籍。指。り。とも。普。通。の。書。さ。ら。も。續。得。ぬ。更。難。う。され
とも。古。く。博。識。の。儒。者。小。續。り。者。は。却。通。自。在。の。神。の。靈。不。續。更。能。ハ
さ。る。難。持。九。眼。の。我。亦。續。得。ぬ。若。續。が。と。言。む。層。層。書。成。貸。す。日。支。を。と
我。一。生。懸。命。の。一。大。更。か。ん。噫。是。は。も。如何。と。ぞ。と。さ。る。俊。才。大。皇。の。吉。備。公。也。
果。て。忙。急。と。心。神。我。困。め。られ。又。思。返。し。如何。と。思。慮。と。勞。す。とも。自
力。及。び。難。う。此。六。神。佛。の。願。護。の。力。借。り。續。り。と。言。ふ。他。施。す。ま。ま。と。り。と

浄衣を着て千洗の口漱きて達不日我の方へ引く礼拝仰願ふ大日本八百
萬神衣懸成垂るの彼野馬臺の詩を續得たり其言大君の盛而さるる玉
兎集と得せりとの烟祈し中臣の枝ひを上る更二千座亦及又年未信仰
ある和州長谷の觀音を遥拜し南無普陀洛山大慈大悲觀世音菩薩
妙智力我加の臣が大危難を救せりとの丹誠を凝して心祈られり

因小曰大和國長谷寺の觀音ハ聖武天皇の御建多かり縁起沙小まき記と
斯て終夜普門品を讀誦し只官觀音大士と祈念あるうち夜白く明りたり
然る小果して唐帝より精招の勅使をき越せたる也吉備公衣冠を整へて
華清宮へ錯昇り見らるる小玄宗帝錦帳の内小出御あり帳外ハ文官武官
朝衣朝服を整へて魏々堂々と居並たり吉備公唐帝小拜謁ありて綬けの
椅子小掛られり安禄山約を毀し日本王吾大君の秘書と需りらるる也

昨年田基の勝負と以て亦勝とを秘書と倭國へ貸給りと定めりし小勝負と
これ今般書籍を讀し能續更を得られし望みの曆書と代貸とと
上命かり足下能續るや否やと問はれ吉備公答て臣不敏なれども玉兎集を
貸給るるといふも試小續いぬとやされり安禄山内官小指揮と車乃文
車と吉備公の前小曳出させたる車の上ハ昭明太子の撰文撰を首とし日本
渡さる珍書のとて積上り吉備公氣を脩め先文選を把て執と用れり
くと續る更水の流る如く其他儒書醜書佛書おける近一旬半点も定なく
續上る更のて執續せし如くありしを玄宗帝と先とて並居る諸臣其博才を
感嘆せし者なり安禄山も惘おる再官人小憚て七室を鏤めたる文書小
錦の表装せし巻物と載て捧出させ吉備公の前小置りて曰其一卷ハ野馬臺乃持
と号し倭國の織文なりとて漢の代より傳れる持かり日本の織文とあれは倭人の續



皇朝詩話卷之三

五

どんむ有(あ)る書(よ)り。いざ疾(とく)續(つ)て望(のぞ)むと吉備(きび)公(こう)須(す)岐(ぎ)馬(ま)と胸(むね)ら
 發(は)げも色(いろ)も見(み)えず。水晶(すいしょう)軸(じく)の二(に)卷(まき)を徐(じゆ)小(せう)把(た)揚(やう)却(か)載(ざい)きて紐(ひも)を解(ひ)繰(く)開(ひら)け
 寔(まこと)も仲(な)丸(まる)の壺(か)の落(お)りし首(くび)尾(び)更(さら)知(し)る長(なが)篇(へん)の詩(うた)あり其(その)文(ぶん)字(じ)六(む)

龍	白	昌	孫	填	谷	終	始
游	失	微	子	田	孫	臣	定
窘	水	中	勳	魚	走	君	壤
急	寄	干	戈	膾	生	周	天
城	胡	後	葛	翔	羽	枝	本
土	空	東	百	世	祭	祖	宗
范	為	海	國	代	成	興	初
范	遂	姬	氏	天	終	治	功
中	國	司	右	工	事	汰	元
鼓	喧	為	輔	翼	衡	主	建

牛	腸	丹	水
食	木	盡	一
食	鼠	一	流
一	一	後	天
人	代	在	命
黃	雞	三	公
赤	流	王	百
與	畢	英	雄
一	一	稱	星
年	竭	犬	流
音	猿	野	飛
鐘	外		

と書(く)り。五(ご)言(ごん)十二(じふに)韻(いん)百(ひやく)二十(にじゅう)字(じ)の文(ぶん)字(じ)續(つ)む。何(なに)まの文(ぶん)字(じ)より續(つ)始(は)む。初(は)じめも知(し)

かく縦(たて)不(ふ)續(つ)横(よこ)不(ふ)續(つ)後(のち)より續(つ)首(くび)續(つ)百(ひやく)般(ぱん)千(せん)般(ぱん)思(し)慮(りょ)を困(こ)め肺(はい)肝(かん)を確(た)む。其(その)割(わり)

下(くだ)らされ。全(ぜん)身(しん)汗(あせ)小(せう)漫(まん)り。心(こころ)中(ちゆう)小(せう)日(にち)本(ほん)大(だい)小(せう)の神(かみ)祇(ぎ)を初(は)じ。殊(ことごと)更(さら)長(なが)谷(や)寺(じ)の觀(くわん)音(いん)菩(ぼ)薩(さつ)を

深(ふか)く初(は)念(ねん)し。万(ま)望(ぼう)此(こゝ)詩(うた)を續(つ)得(え)ざる。當(たう)座(ざ)の耻(ち)辱(じやく)を救(すく)む。其(その)心(こころ)小(せう)渴(かつ)仰(やう)有(あ)る。

奇(き)ある。か忽(とつ)然(ぜん)と空(くう)中(ちゆう)より。小(せう)細(こ)多(た)彩(さい)の飾(かざり)下(くだ)りて。東(とう)の字(じ)の末(すえ)少(せう)時(じ)留(とど)り。

海(うみ)の字(じ)姫(ひめ)の字(じ)と漸(ぜん)く。小(せう)這(た)と。小(せう)其(その)跡(あと)は。金(きん)色(しき)の糸(いと)を引(ひ)きて。文(ぶん)字(じ)の順(じゆん)次(じ)句(く)續(つ)ま。明(あ)る

久(く)し。吉(きち)備(び)公(こう)心(こころ)中(ちゆう)の喜(き)悅(えつ)聲(こゑ)言(ごん)る。小(せう)物(もの)が。是(こゝ)に。天(あま)神(かみ)地(ぢ)祇(ぎ)の應(おう)護(ご)且(かつ)長(なが)谷(や)の觀(くわん)音(いん)

大古御利益あるなりと信心肝銘目然放さず蛇の糸筋お就て續まざる小糸並
とて詩の意隈なく解しう。然ども余人と蛇を足る変なく。安禄山吉備公の猶豫
ある然て。是詩を續得ざるありと独笑す。如何や疾續まされざると急まらざる
備公完示と亦笑さる。續上いん能安のりて。高声亦續上らる。其詩曰

野馬臺之詩

東海姫氏國	百世代天工	右司為輔翼	衡主建元功
初興治法事	終成祭祖宗	本枝周天壤	君臣定始終
谷填田孫走	魚膾生羽翔	葛後干戈動	中微子孫昌
白龍游失水	窘急寄胡城	黃雞代入食	黑鼠狼牛腸
丹水流盡後	天命在三公	百王流畢竭	猿犬稱英雄
星流飛野外	鐘鼓喧國中	青丘與赤土	茫茫遠為空

と字く句く一言の淀みなく。弁舌溜くく懸河の如く。續上られぬ。玄宗帝と先と
して衆人大小孩れ感。古より博學多才の安えある鴻儒の續得ざる。難詩を
只度見て斯易くと續し人ふあり。昨年の棋の手並といひ日本ハ如何の大
智の人有人の量がごと。皆舌と捲て恐まざる。安禄山ハ又此度の心巧由画餅と成
し。或無念おのり吉備公小對ひ野馬臺の詩を續得られ。奇特なり。但し此
詩ハ先おのり如く倭國の織文なりと言傳まざる。詩の意を解得ざる者有。更と
まると。足下公後人あれ。今續て詩の意を解得られ。其人其織文ハ何を
以てりやと。結向吉備公公。是れ倭國の織文とあれ。將來の更を人たり
ハ知難しと。初句より四五句まで。過去の義お。思ある。更の。大略。説
る。先初句ハ東海姫氏國とある。倭國ハ此唐土より。東の海中。小有む。東海と
あり。備日本國初天子と。天照皇太神と号し。是れ女帝。在すと。以て。姫氏乃

國といひあらん。第二句の百世代天工と百世長久の大敷を以て百世小限るとの
 義不あふ。代天工と日本八天神七代地神五代令と十二代の間を神代と稱し十三
 代神武天皇の御宇より始て人皇の御代と稱せしむ。人皇神代の帝祚を受嗣せ
 ひて國を治めり。以て天工お代といひあらん。第三句目の右司爲輔翼とを神
 武天皇の臣下天種子命天富命左右輔翼の臣と爲て無道の者之伐有道
 の者之奉て政を補とす。右司といひて左司と兼みあらん。第四句の衡主建元功とを
 人皇三十三代用明天皇の皇子聖德太子ハ衡岳の惠思大師の後身なりと稱を
 以て衡主といひ。元功成建ると右の聖德太子三十四代の帝推古天皇と浦佐
 一横政となりて冠位十二階を定め十七條の憲法を立て治國平天下の基と稱す。
 故小元功を建るといふは。第五第六の兩句小初興治法事終成祭祖宗
 とするも皆太子の功績小申まり。是等の句までハ當今聖武天皇の御治世まで乃

紀小中きり。然も第七句より以下ハ將來の織文ハ公を前知する隻能ふとい
 詩句の意を明くし説安されぬ。安禄山と言句小結し赤面と一言由殺する隻
 能ふ。玄宗帝ハ始より吉備公の論弁を居ゆひ多。其聰明睿智を感
 ず。いづる英才の者を臣下と行て政道を佐けり。大國の益と成りと思
 へり。其の御を知らげて宜ひたる。滅小公の俊才名弁尋常の者の及ぶ所。此六
 朝の玉免集とよみ。然も先代より秘書書は只一部有りとされ。秘書監小
 命じて字さしめ。然て後日本示献せん間寛く返甲。いづれ倭國ハ傳く所乃
 茲能ふ。字ハいと。其より沈香亭小酒宴と催し吉備公を重く饗應せり。い
 々る小。吉備公大い喜悅あり。酒與入酒宴畢して後厚く帝恩と拜謝し
 辭を願ひて宮中と退出。鴻臚館へく。倭國の神祇を遠拜あり。取分て長谷
 の觀音の御刹。五盃と尊。深く佛恩と謝し。其夜ハ快く枕を著れり。

和州初瀬觀音由來

佛座巖出現事

吉備大臣の信仰ある和州長谷寺の觀世音とす。聖武天皇の勅願小依り
 神龜四年吉備公の入唐より七年前小御建立あり。開基は徳道上人奉行は藤原房前公
 佛子八座主より奉朝せし賢文子芥子國文子開眼は行基僧正して佛像は
 御丈二丈六尺十二面觀音なり。抑此觀世音の由來と尋なる小昔近江の湖水
 洪水せし夏有る多し何國より流し出久長六間周り三圍むる乃楠の大木
 湖水は流しきりて天津の浦に流れより多し里人曼を曳揚んとす。奇
 あるる小楠小手と掛し者悉く疫癘を患へし。諸人大小恐れて其小捨
 置るる小楠湖を東西南北と流し回して年月を往々る小大和國八木の里
 小井の廉子と呼る寡婦あり二親及び夫も死別し其追善の爲佛像一
 軀を造らんと志願と起し。たれども。よき良材を得ざる所小或人近江の湖小

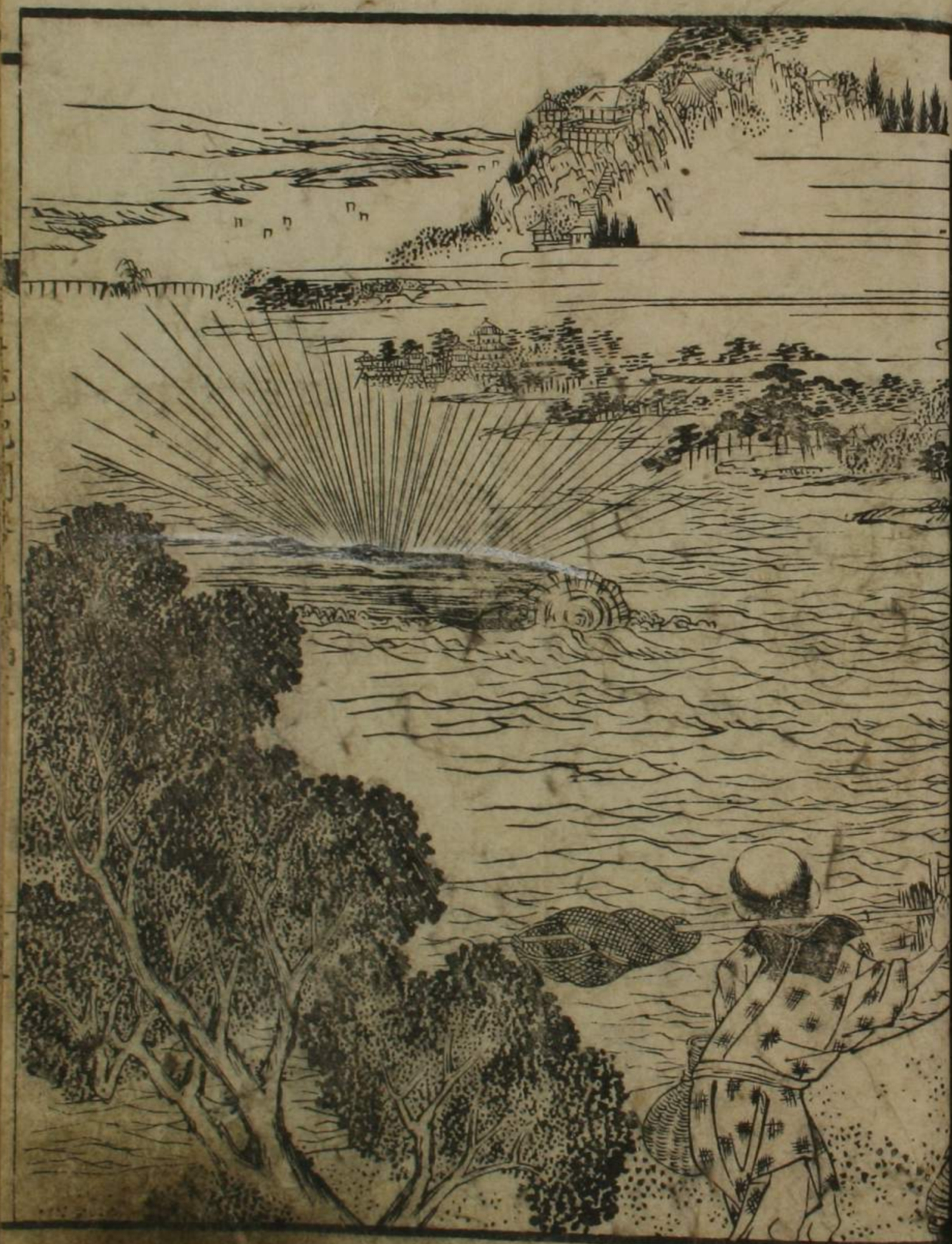
良材漂ひ流るる夏を往りたる。廉子悦び即ち江州大津へ到り。小楠此
 頃より大津の浦に流寄し折たれ。廉子は是を見て里人小乞求る小上系り患
 恐る。良材あれど小任せ多し。廉子喜し人歩を雇ひ吉郷の八木へ曳せ歸
 り佛師と需り佛像小彫んと思ふ。廉子病死し。小楠其後廉子家の
 あり小有る。是を取んて小掛る者あれど皆疫病を患多し。敢て取んと
 する者なく。又數十年と往り。然る小一年八木の里小洪水出て。伴の楠同國長谷
 川へ流し出ると。土人世珍し。良材あれど川より曳上。是を物小用ひんとて手と
 掛し。宗り残受る夏以前。如く依て是も恐れて注連を張。近寄者なく。捨
 置る小數年。至て後徳道上人長谷。未り。右の楠を見て。垣結廻し注連を張
 る。代異し。土人其故を問ふ。小近江の湖水小流れ。然る小八木の廉子佛像小造
 る。とて曳歸り。小楠子病死し。楠は洪水の爲小長谷川へ流れ出。と曳上。て小

ひんと手成掛る者あれむ。皆崇り成受るる也。如此小垣を結注連を張ぬかと。結り
多ふ。徳道上人にて。是靈木なり。惜いふ。廉子と申。望を遂げりて。死没し
更我此杖を以て。佛像を造り。其女の志願と果さむ。我小給てんやと。こ
れを土人一儀。及む。許さる。上人喜悅あり。人歩を憑て。長谷山。曳
上佛像。小造。んと欲せし。も。貧僧。あれ。自力。及む。楠の側。小草。菴と。結ひ。且々
杖を。礼拜し。万望。佛像と。造り。なる。力と。助る。大檀那。を得。さる。も。と。祈念。ある。更
三年。小。及む。び。多。る。小。藤原。房前。公。の。婦。子。一。日。狩。獵。の。為。長谷山。へ。入。り。と。る。小。人
の。僧。杖。木。の。前。小。坐。し。て。袖。う。小。礼。拜。し。と。居。る。も。不。審。小。思。れ。主。寄。て。其。故。と。問。は
る。小。徳。道。上。人。楠。杖。の。来。由。を。語。り。佛。像。小。彫。んと。欲。せし。も。自力。及む。る。也。大
檀那。と。得。ん。と。如此。小。号。年。祈。り。ゆ。か。う。と。答。れ。る。房前。公。深。く。感。心。あり。実。奇。特
なる。主。心。く。か。當。今。六。佛。法。を。御。信。仰。せ。ませ。我。殿。洛。の上。君。へ。奏。聞。し。佛。像。小。彫
る。力。を。助。け。奉。り。と。仰。せ。し。と。上人。大。不。歡。喜。あり。拜。謝。し。と。頼。ま。れ。る。も。房前。公。帰

洛ありて。後。糸。肉。と。右。の。由。を。奏。聞。し。及。む。れ。る。も。帝。も。兼。て。觀。音。の。佛。像。と。造。ら。せ
と思。召。さ。る。折。々。と。ある。也。睿。感。さ。り。し。其。頃。名。佛。師。と。世。小。稱。さ。る。賢。文。子。不。立。國。又
子。小。命。ト。の。ひ。彼。楠。杖。小。て。二。丈。六。尺。の。土。面。觀。音。の。像。と。彫。ま。し。め。の。賢。文。子。又。子。勅
命。と。奉。り。長。谷。山。到。り。て。西。人。丹。織。を。凝。し。遂。小。楠。杖。を。以。て。觀。音。の。大。像。と。彫。り。畢。る
が。二。丈。六。尺。の。大。像。あれ。む。基。座。八。何。を。以。て。造。る。也。と。又。高。麗。し。と。い。ふ。三。次。三。三。所。り
其。夜。一。山。大。不。鳴。動。し。と。多。也。緒。人。甚。だ。發。死。是。八。何。ある。變。更。不。や。と。恐。怖。し。と。多。也。其。時
よ。く。震。動。止。む。是。小。依。て。夜。明。て。山。登。り。え。れ。む。夜。の中。八。尺。四。何。の。岩。出。現。し。と。多
平。く。あ。り。て。坐。す。佛。足。を。載。る。所。有。る。も。小。徳。道。上。人。と。り。賢。文。子。父。子。奇。異。の。思。ひ
なり。是。緒。天。の。加。護。し。の。所。か。う。と。歡。喜。踊。躍。し。岩。の。根。と。深。く。掘。穿。せ。し。も。小。更。の。底。に
ま。る。と。實。小。天。力。の。為。所。あり。て。人。巧。の。及。む。所。あり。と。感。嘆。し。と。止。ま。り。則。ち。其。石。の。と。佛

像と載せたる不殆と此佛像の爲小別小造成る如く誠不思議の由徳余りあり
斯て観音の靈像成就せし旨奉聞しを則ち藤原房前公と奉行して堂宇を建
立せしめ以造管畢りて初瀬寺と寺号と下され行基僧正同眼させり
我徒て御糸緒ましく。多々乃金銀米銭を御寄附あり。又數多の賤帛を傳化し
絶し賑げりのみなり。是より貴となく賤となく皆初瀬寺へ奉納し緒の願行り
利益の炳然と観音の物相應ざるが如く願として叶はる事なり。是亦依て日夜奉行人
絶間なく山川數百里を隔し遠國より皆歩み成と運びくる。されば吉備大臣此観音
産無を常小信仰ありて公勢の違ある毎歩み成運を果ると今度大利益と
蒙り身の誉を國の誉れと異國に残されり。信あれど得有とハ是亦の更と増多下
因小曰賢文子芥子國又子唐土の産あり日本へ渡りて緒寺の佛像を
其作至妙なりと皆靈驗ある。今の京都誓願寺の本堂高松院佛の彫り文子

芥子國の作なり曾て一佛と又子所を異しと半身つし持寄て合せたる小
一分の合する所なり。一人と刻するが如くありされば緒人其絶妙を感嘆し
此本尊中頗る靈驗有る小惜み弘化二年正月廿七日火災ふりて焼亡し
安祿山謀害吉備公 仲丸靈救吉備公危急條
却て鏡玄宗皇帝ハ吉備公の俊才を愛し如何ゆと唐土小留めて臣下中爲んとの
と翌日鴻臚館使者とまき吉備公と眞慶宮へ召し酒宴と給ふ。又種々の珍寶と
よみられ宮中御用にて三日小宴を同れ五日小大宴と催して饗應し或は諸般の
藝術小堪能なる者と召寄られて吉備公小習字をいめぬと偏小其心を
臣下と爲んと計れり。吉備公ハ眞宴珍寶中珍玉となく只玉免集と得て一日も
早く帰朝せむと度く玉免集思借の義を願われぬも帝ハ層書とよみ
日本へ歸るなりと思召吏を左右小寄て時且延されり。吉備公ハ心かたの唐



土不足を画むる更又三年おと及び其の書典書法軍字。船法諸の遊藝
 小のる迄来り字に究められり。時小本朝おて下道吉備入唐してより已小四年の春
 秋を歴止もいまも帰朝せられ太上天皇待りてせの御奈内ありて當今
 おむりせの先年入唐させ安部仲丸其生死定らざる以て再下道吉備
 を彼國へ渡らせし。是より四年不及也何の消息もなせ。陛下群臣の中より
 秀者の者と擇出遣唐使とて渡唐させ仲丸吉備が安否を知らせんと宜
 々るおす。王上謹んで奉りし。舍人親王と御拜儀の上多治比真人廣成と以て
 遣唐大使と。從五位下中臣朝臣名代を副使と。判官録事の中其器小當り人
 を擇むるひまの聘物を齎して入唐せしめ此人勅命を奉り天平六年申戌の正
 月上旬小平城の都に幾足。口下旬肥前國唐津より乗舟。瀬を解り大海へ乗出
 一するが海上恙なく。三年三月下旬明州の港小着船し。これより船を下り長安の都

小のる鴻芦館へ入て休息。多時吉備公唐帝の召依て宮中お居られ。遣
 唐使者館せし由とて大の悦び唐帝の御殿を願ひ鴻芦館に到り廣成名代以
 下小對面ありて互無事を賀し悦び合更限り。さて廣成吉備公小向ひ貴卿入
 唐せしより已小四年と歴も尚歸朝かれ由。當今太上天皇とも大の待り。のり
 彼玉免集ハハ得られ。や仲丸の生死の程も覚疎と向られ。吉備公吞て其就
 て長物結あり。如斯くありと始仲丸の靈鬼の物語。國基の勝負野馬臺の詩を
 續一條初願の觀音の御利益の更。て一五十年結られ。身も廣成。下り一應の人
 く一度ハ孩れ。度ハ感。又ハ仲丸が憤死と哀れ。々々。吉備公又廣成小向ひ。や
 玄宗帝已小彼玉免集と日本王贈る。と許容有。と更と左右小守。て時
 日と延酒宴遊樂を以て我を今日まで抑留する。我心を懷て此國の。と為ん
 為。下。彼仲丸玉免集と字取。後小唐朝小仕。れ。我。此國。由。を

久や。貴卿唐帝小謁せしむ。玉免集とて我を帰朝を許さる。やうふす。のりる。と頼まれしを。廣成承経。一萬支を示し。令。兩日休息。三日。日。小廣成名代判官録。吏吉備公。同伴。聘物を從者。小昇持せし。王宮へ。糸内。玄宗帝。小拜謁して。日本天子の勅書を捧げ。禮物を獻じて。唐朝の。太平無敵と祝賀し。玄宗帝。倭國の安寧と賀し。答礼。のりる。大使廣成。幻を改めて。奏。吾日本天子。万民の爲。倭國小曆道を起さん。との下道。吉備を貴國。未。玉免集。思借の義を願し。のり所。已。小四年の。年月。今。以て。吉備を帰。給。今。般。臣等。以て。脚治。世慶。賀。玉免集。思借の義を再び。願。のり所。万望。脚治。客。のり。吉備。も。歸朝の。脚暇。を。給。希。希。帝。聞。先。年。よ。吉備。日本。王の。純書。と。持。て。朕。が。國。小。来。り。玉免集。を。需。む。る。更。切。あ。れ。る。因。祖。

皇帝より珍藏ある秘書。只。部。右。の。れ。他。國。傳。へ。ん。如。何。臣。下。の。奸。讒。區。く。二。決。せ。ど。其。上。國。勢。敏。系。ま。て。り。年。月。押。移。ま。る。然。れ。も。日。本。王。の。再。度。の。烟。望。中。黙。止。し。を。彼。書。と。一。部。写。し。て。國。小。遺。し。然。と。日。本。王。小。皇。と。し。と。れ。道。六。鴻。臚。館。に。て。寬。く。逗。留。海。路。の。疲。勞。を。休。め。と。右。々。の。廣。成。拜。謝。し。也。も。上。命。小。從。の。旅。館。に。て。相。待。ひ。を。と。上。宮。中。と。辭。し。鴻。臚。館。に。て。帰。り。る。諸。唐。帝。より。張。九。齡。王。維。小。と。持。伴。使。と。て。鴻。臚。館。に。於。て。倭。國。の。使。者。と。種。々。小。饗。應。あ。る。も。廣。成。以下。旅。館。小。逗。留。さ。る。更。八。三。月。む。り。小。及。び。り。茲。小。唐。朝。の。倭。島。女。祿。山。小。吉。備。公。小。耻。辱。と。取。せ。し。巧。し。兩。度。の。奸。計。画。餅。と。あ。せ。し。深。く。遺。恨。小。狭。く。吉。備。公。を。切。害。せ。し。と。百。般。小。心。と。り。し。れ。も。い。ま。其。使。し。得。ま。る。所。小。此。般。遣。唐。使。来。り。吉。備。公。を。迎。歸。る。小。更。定。り。り。を。今。年。延。小。ら。う。が。と。揚。國。忠。以下。の。奸。徒。を。招。れ。集。め。商。議。し。る。ハ。我。日。本。の。使。者。吉。備。公。と。

成をんふも機人小勝と且勇悍なり。然も吾國未久く逗留して兵學疎は。其
劍の術まを學び究め。人の剛臆地理の難易成も知ら。渠を倭國へ歸させ。後終
此國の害と也。然るも我王遠慮なく。珍藏の曆書と手(近内小歸國)で
めんと志す。大いなる御僻更めむや。我國の爲に吉備を討て捨て思へり。列
位良針あを相述らるる。と云れ。揚國忠進と出吉備を害せん。あふ兵刃を
用ひん。鴻芦館小酒宴を殺け。餞別の酒を勧ると称し。酒中小鳩毒を入て
吉備を先く。倭人們小毒酒を飲もて。廢盡せし。不如といふ。安禄山平を拍
此謀大不妙なり。彼を毒針を用ひ。とて其準備を成ふる。去程小玄宗
帝吉備公と臣下小せん。思召れ。其苗す。ま。た。色。と。祭。り。ゆ。い。今。人。望。の。書
文と。歸國させ。めん。て。廣成吉備名代。と。宮中へ。召し。金鳥玉免集。及び。大
行曆。往。貨。物。武器。ホ。と。下。され。歸國の。御。暇。を。給。り。れ。三人。も。大。不。悅。ひ。拜。謝。

と厚く思を謝し。宮中へ退出し。鴻臚館へ歸り。歸朝の用意と。急を。是
より。以前。小。麻。呂。の。玄。東。が。妻。隆。昌。女。ハ。日。後。園。小。出。て。婢。女。と。登。餉。の。粟。の。葉。と。搗。て
居。ら。る。る。小。婢。女。忽。ち。監。を。投。捨。身。を。戰。慄。と。突。起。隆。昌。の。面。を。吃。と。見。声。も
平。日。小。変。り。と。雄。々。と。口。を。を。ら。る。我。是。日。本。の。學。士。安。部。仲。九。郎。倭。臣。安。禄。山。の
奸。針。小。指。り。高。樓。の。上。小。餓。死。無。念。の。魂。魄。陽。土。を。去。と。産。亞。鬼。と。成。て。倭。國。の。勅
使。吉。備。大。臣。と。守。護。し。金。鳥。玉。免。集。と。需。り。得。り。と。世。其。一。念。通。と。云。宗。帝。遂
小。彼。書。と。吉。備。公。給。ひ。歸。國。の。願。と。許。り。け。り。然。る。も。安。禄。山。又。吉。備。公。と。毒。酒。を。以。て
害。せ。んと。巧。り。先。年。岡。基。の。勝。員。の時。夫。玄。東。が。肩。を。隠。さん。為。小。吉。備。公。の。取。れ
黒。石。一。次。取。紙。小。包。と。て。吞。隠。せ。し。我。我。集。り。吉。備。公。も。知。れ。ら。う。然。る。も。石。の。足。さ。る。と
以。て。照。病。鏡。小。字。穿。鑿。有。時。作。腹。中。の。石。鏡。小。字。安。禄。山。見。処。て。己。小。紅。明。が
及。む。と。せ。し。吉。備。公。你。夫。妻。を。刑。せ。れ。ん。と。變。と。憐。れ。く。妊。娠。の。子。種。な。り。と。言。ひ。り。危

難を救れり。彼時吉備公おろせむ。你ハ腹を断れ。去東の刑せむ。其鴻恩を思ふ。安禄山が邸舎へ到り。酒宴の酌女とや。人妻を淫。毒書の得。計を吉備公告危難と救の活命の恩。敢て報せ。敢て忽ち。更勿れ。言終り。急ち地上おれ。網絶たり。隆昌大少。其婢女。只。此條。悉く。身お覚。ある。密変。なれ。是亡霊。婢女。執。吉備公の危難。世々。下。と思。身。も。取。て。恐。ろ。く。先。婢。女。ハ。面。水。を。灑。て。呼。活。る。正。氣。小。う。り。忙。急。る。体。な。れ。茶。湯。を。飲。て。氣。を。鎮。め。せ。借。婢。女。向。の。汝。今。言。る。更。を。覚。へ。う。や。と。向。小。婢。女。を。何。更。も。覚。む。と。い。ふ。と。亡。霊。の。死。言。あ。る。更。を。覚。り。全。内。小。入。て。夫。去。東。小。巨。細。を。治。り。人。う。て。恩。を。知。る。禽。獸。小。も。分。き。う。と。や。猶。疑。ひ。て。倭。人。の。危。難。を。救。む。ん。亡。霊。の。怒。小。觸。て。如何。なる。宗。り。受。ん。も。量。じ。依。て。去。女。安。禄。山。の。邸。舎。へ。到。り。如。此。と。言。て。酌。女。の。役。を。乞。受。て。倭。人。の。危。難。を。救。ひ。い。ぢ。御。身。ハ。患。病。と。

稱して内房小引籠り。外より入来り。人逢ふ。更おれと言ふ。去東縁の。其日より患病と稱して引籠り。隆昌女侍女奴隷を侍りて。長安の安禄山が邸舎小到り。御願ひの條あつて。遠く参り。者おの。万望。相見を展覧せむ。と。言。せ。る。れ。安。禄。山。在。宿。と。在。る。更。何。者。お。や。と。呼。入。て。對。面。さ。る。小。何。と。中。へ。怒。あ。つ。女。た。れ。少。時。沈。思。て。漸。小。思。ひ。出。し。你。先。幸。宮。中。小。棋。の。勝。負。と。競。し。時。給。仕。小。出。し。女。あ。つ。と。と。向。わ。せ。隆。昌。女。頭。を。低。仰。さ。る。如。く。其。時。給。仕。り。さ。す。者。小。て。い。室。ハ。去。東。が。妻。小。て。棋。の。技。も。粗。知。て。い。む。去。東。も。棋。の。勝。負。小。危。を。更。ハ。む。力。を。添。て。勝。せ。ん。と。女。官。と。わ。り。て。其。席。小。侍。り。たり。然。る。小。倭。人。去。東。の。外。小。棋。の。高。手。小。て。夫。も。已。小。危。く。見。ゆ。小。幸。中。小。地。棋。を。ち。ゆ。い。む。い。ま。ど。石。持。也。知。ま。か。と。思。ひ。倭。人。小。勝。更。能。か。ま。ま。を。夫。ハ。深。く。無。念。小。思。ひ。圖。へ。歸。り。て。心。痛。の。病。を。發。し。医。療。不。成。場。也。其。餘。け。此。頂。疾。病。と。わ。り。已。小。九。死。生。の。

際不臨之扁鹊華陀とりとも救ひかゝるは是倭人と棋を争ひしより後一難
病ふいむ夫の仇は彼吉備なり。今もあれ去東病死をりいひ女あかす吉備刺
殺し夫の壺を慰んと思ひいひ君の脚免を蒙り。吉備八迫丸内倭國へ歸り
いよ承り左あつて夫が病死の後仇を復しり更も不叶いむ。此國は在内り
死心は報せまろく行ひ所鴻芦館にて餞別の脚酒宴を促しあふり。願ふ
てい。是天のよする所なりと九死の夫を人捨違く脚館へ奉りいかり。仰願りく妻
小脚酒宴の酌を執せり。透を移して吉備と刺眼まろく。此願ひを脚
許しあつむ。現世あつて君の婢女もあ。来世君が馬も成り。と言巧く。涙
と流して滅し中ふとや々。安禄山公毒酒の謀針其準備細ひか。い。知才あ
る。酌人を得と。維をう用ひ。心を賦る折あれ。是天の助ありと大い悦びて
面を和らげ。偕は。東が妻あつて在る。我其時をれ。知。記。你。夫。の。為。小。仇。

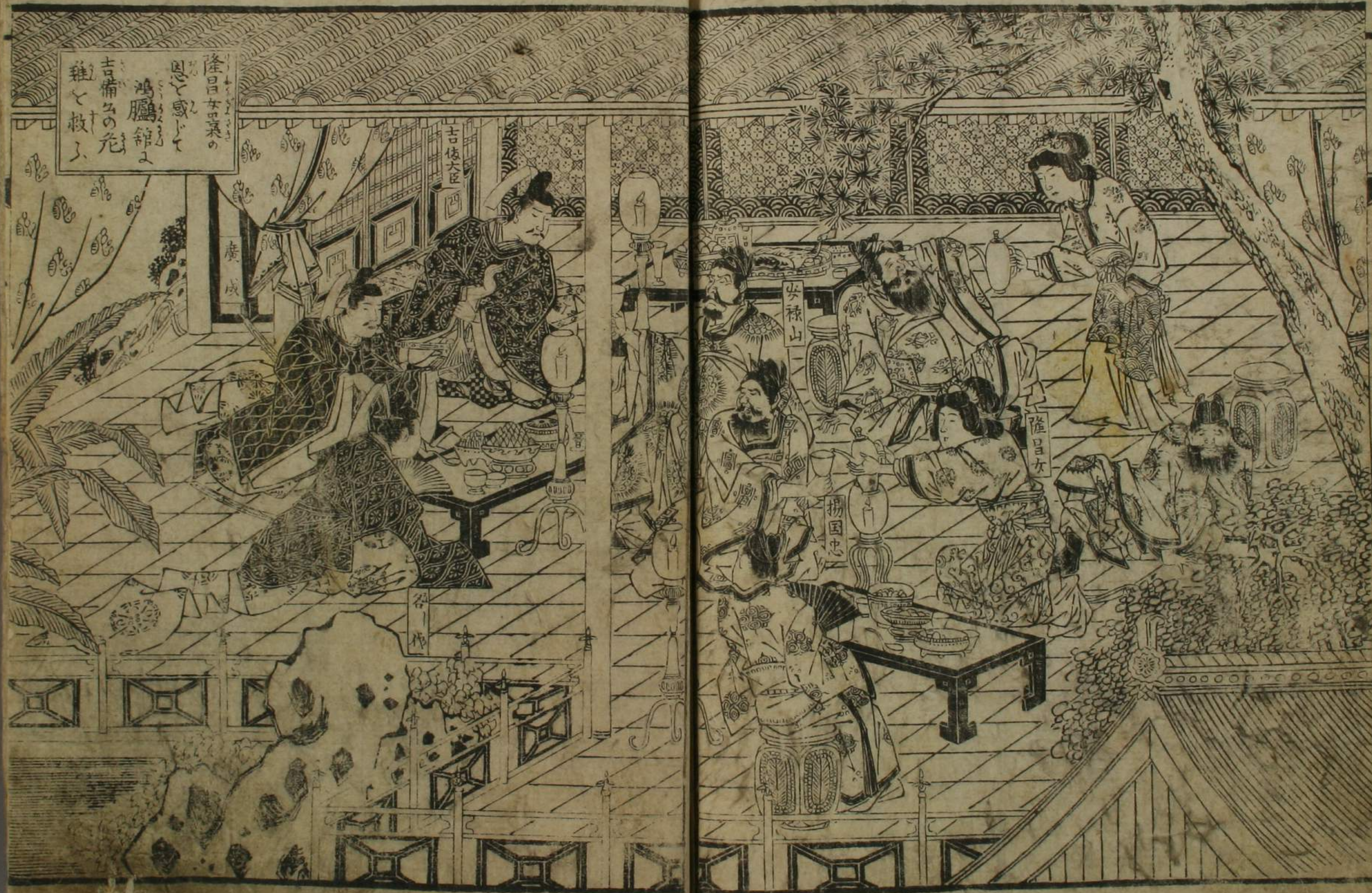
我復さんと思ふ。負節小免と望との如く酌を執る。但し七首を用ゆる及む。と
彼吉備ハ将来吾國の害と成つれ者あ。我君の為國の為。深毒酒を以て
死滅させんと。己小其準備ハ細はれ。倍酌の者克く。智才を用ひて酌を執る。
を謀針中らす。你其酒宴酌ふ及び。頂二の瓶子小毒酒と無毒酒を盛
て出さず。是倭人小毒酒を吞せ。此國の者ハ無毒酒を吞らん。あ。なり。む。
酒瓶ハ異ある。更ふれ。其蓋ハ一点の朱と引物。毒酒なり。朱点あ。ハ無
毒酒なり。敢て夜眼小見。誤る。更ふれ。但し倍酌の者。你一人の。を。教。人。有。り。又
とも。毒酒の酒瓶を。你と。今人我腹心の女と二人。と。主。と。毒。酒。の。義。を。決。り。言。ふ。ら。る。
役。を。執。り。仕。損。む。更。分。と。又。此。國。の。者。乃。も。毒。酒。の。義。を。決。り。言。ふ。ら。る。
む。謀。針。中。ら。る。貴。ぶ。ハ。此。謂。なり。你。謀。針。を。成。遂。ふ。大。の。思。賞。を。帝。の。
下。て。と。を。用。ひ。て。勉。よ。と。言。ふ。ら。る。隆。昌。女。満。面。小。女。を。含。む。大。平。悦。び。て

起て拜謝し誠不如此を又何れ患ひいざらん血塗主とて夫の仇を復し
と偏小將軍の賜なりと三拜九拜しこれ安禄山も満足の思ひをふし是より
隆昌女を己が邸全留りたれ尚万隻の手配を定め己小用意十分小綱ひれ
己小何擔の崔國輔代勅使とて鴻昔館へ遣はるる時小廣成吉備名
代以下ハ鴻昔館小在て專ら歸朝の用意をとり急死預め更調ひる小或
夜吉備公の枕頭小仲九の靈現を出てきて曰如何や吉備公望の玉免集と
得歸朝の友とも得てささと満足しゆらん我も女執を暗しゆや但し明日
勅使と稱して崔國輔来り唐帝より此館舎小於て餞別の酒宴を賜ふなりと
言ふ是安禄山奸謀を酒宴小托と卿亦と毒殺せんめ巧なり我と
より其謀計を知彼云東が妻小緑山奸計を告倍配と成て卿亦の危きを
救ふと託せり然れども彼女實小卿亦を救ふや否や其心を知り依て明夕

まで小荷物と明洲の港の船へ運び積せ何時小も出帆する手筈と定めおれ
儲明後夜酒宴の席小臨み酒と香休むて承り捨棄て口小紅彩と合
おれ半酣お及んで紅彩と吐て血を吐し体小んせ煩悶して席上小休むは使徒
者小扶られて乗車小乗急小後門より出て夜とより小港の船へ走者乗船して
急小出帆せしれ緑山追兵とくとも我是を感个遮るる返く乗船出帆
乃手筈と能下知り又と告終り女小消すとわらふる吉備公大い小驚お急り
廣成名代と呼起して密小亡靈の告を語られれを両卿も仰天し其と身の
一夫をいとも如何と命を顔色失ひ多と吉備公制し己小敵の奸計を
知上ハ心づく小不足万隻ハ我小任ゆとて從者奴僕と承り呼寄明日港の船へ
物小運ぶと下知し尚出帆の手筈と示し合と内夜と早曉の成れ奴僕小
未明より緒荷物を悉く運送しる廣成吉備名代亦を接伴使する王維小

出帆の用意調を近日發足を命ずる旨に王宮へ奏上す。帝は拜謁して近日都戎發足の事由を奏し、脚暇を願ひ旅館へ歸らるる小出
して七雲の告の如く。崔國輔勅使と稱して鴻臚館へ入来りたる也。遣唐使の面
懸謹小見を請ふ對面ある。崔國輔が自倭國の令近日發足ある由を帝に奏
此館舎小於て明日餞別の酒宴を催し。留別の脚不を給らんとの勅詔あり。其旨
領掌あると相述る。廣成以下皆少其詐謀あるか。其態と忝る由を返
答し。崔國輔は仕と返す。心小笑辭を告。歸りたる。斯て其日中過契約乃日
少も成る。倭人を鞍直馬戎後乃外小敷系をさせ。車を拔落の準備を待と
もせず。崔國輔揚國忠安祿山們鴻臚館へ入来り。客殿小宴席を設け。種々乃器
皿珍菜鮮肉具をとり。更た。遣唐使の面々。精神。隆昌女及び支の倍敵の女と
花麗小粧して。飲と執せ。又美貌の妓婦小羅綾錦綉と。よそを飾らせて舞舞。

彈鼓をせて。響食應々。原より始の程。毒酒を用ひ。かれ。唐王の者。八飛九齡
王維を先けて。大少真小入。玉を順逆。小廻。献酬と。り。小樂と。及。一々を
され。も。倭人。酒を吞。体小。入。せて。盤水。捨。二の肉。食せ。と。針の席。小坐。する
心地。一日の暮。待。子。斯。て。夜。の。あ。り。を。満。殿。小。銀。燭。を。燈。す。つ。ね
恰。も。白。昼。の。如。く。暉。信。酒。宴。と。盛。ふ。り。時。分。と。小。隆。昌。女。と
今。二人の酌。女。小。主。母。酒。の。入。酒。瓶。を。持。せ。席。出。り。小。隆。昌。女。吉。備。公。の。危。難
を。救。ん。と。兼。て。扇。面。小。安。祿。山。が。巧。計。を。細。密。小。書。密。小。吉。備。公。の。袖。へ。投。入。り。吉。備
公。ハ。此。女。と。云。東。が。妻。と。下。と。思。れ。其。面。を。能。く。見。る。小。平。小。先。手。棋。石。を。の。こ
隠。せ。女。あり。を。愈。亡。靈。の。告。の。違。は。る。感。下。淨。手。小。立。休。小。人。カ。れ。所。往。密
ろ。小。扇。子。を。用。ひ。る。小。細。書。小。毒。酒。の。謀。計。を。知。り。詠。つ。く。鴆。毒。小。中。小。体
小。此。席。を。早。く。避。り。と。書。き。る。依。て。扇。子。と。懷。中。小。隱。水。口。合。で。回。り。席



隆昌女中裏の
恩と感して
鴻鴈館
吉備の元
種と救ふ

吉備大臣

廣成

安祿山

隆昌女

揚国忠

小飯着れたり。隆昌女ハ吉備公の座とまね、間小手早く毒酒の瓶の蓋と無母酒
の蓋と取入るれども、衆人皆泥の如く酔て服も定まらざる。笑法法歌置くと
喧しけり。此御酒ハ帝より別給じ仙家の美酒にて、倭人あつて勸めよとの詔令小
ていぞ敬んで拜味いと言さぬ。耽と目語らるる小吉備公其意と察す。是を
毒酒あつて思ひ廣成名代等小目結。先自身満くと、受吞体小て密に捨
厄と廣成へ献じたり。素より此酒ハ毒酒にあらずとも、隆昌女が目結せ、早く毒小
中じ体小て席に退れり。知せしむる。斯て廣成名代も厄を受て酒を吞体を
かして悉く捨るるも、隆昌女が取換へ瓶の酒を鴆毒ともあらずと相伴の唐人
手はく瓶を執て己と酌。又ハ日伴の者中勸り毒酒を吞者五六人小及ハ、小吉
備公ハ、一声叫ひ、小令紅と吐て、席未同伏、苦じ体小てあられハ、近侍の士

